

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22006
学校名：新川小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○全国・札幌市の平均を上回った種目 「握力」	○全国平均よりも下回った種目 「長座体前屈」「シャトルラン」「50m 走」 「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「反復横とび」「上体おこし」	特に「長座体前屈」「反復横とび」「シャトルラン」と言った、柔軟性や敏捷性、持久力を測る種目での値が低いことが目立つ結果となった。
体力・運動能力 ＜女子＞	○全国・札幌市の平均を上回った種目 「握力」	○全国平均よりも下回った種目 「長座体前屈」「シャトルラン」「50m 走」 「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「反復横とび」「上体おこし」	特に「長座体前屈」「反復横とび」「シャトルラン」と言った、柔軟性や敏捷性、持久力を測る種目での値が低いことが目立つ結果となった。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	○「運動やスポーツを好き」と感じている割合 男子 81.8% 女子 81.5% ○「体育の授業を楽しい」と感じている割合 男子 86.4% 女子 86.2%	○学校の体育の授業以外で、運動やスポーツを1日にどのくらいの時間していますか。 男子 土曜 105.8分 日曜 119.9分 女子 土曜 68.1分 日曜 53.1分	男女ともに運動することについて肯定的な回答をしている子の割合が高かった。しかし、運動が日常化・習慣化されていない。子どもが主体的に運動に取り組むことのできる働きかけや場づくりが必要である。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
--------------	------------------------	------------------------------	----------------------------

具体的な取組	<p>○指導と評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の体育の学習の中で、運動量の確保や子ども同士で教え合うなど、効果的な場の設定や教師の関わり方を大切に。また、Chromebook を活用し、子ども自身が自分の課題や変容を見取ることができるようにする。 <p>○準備運動での新川体操の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の準備体操の中で、学校独自の準備体操を行うことで、楽しみながら準備体操ができるようなはたらきかけをする。また、準備体操の中でなわとびを取り入れ、運動量の充実を図る。 <p>○課題探求的な学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が運動や健康に関する課題を見付けられるように、それぞれの単元のデザインを行う。 	<p>○「マット週間・跳び箱週間」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月13日(火)～23日(金) マット週間 ・12月8日(火)～12月18日(金) 跳び箱週間 <p>・マットや跳び箱を常設しておくことで、道具の準備・片付けの時間を省き休み時間にも運動できる場を作ること、子どもの活動時間や運動量を十分に確保する。</p> <p>○グラウンドの環境整備・外遊びの推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮し、遊ぶ種目ごとにグラウンドを場所分けすることで、安心してグラウンド遊びができるようにする。 ・休み時間に外で遊ぶよう、教師が率先して、子どもを運動に誘う環境づくりを行う。 ・休み時間に友達と楽しみながら運動できるように各学年にドッジボール、サッカーボールやドッジビーを配付したり、グラウンドに竹馬を設置したりして子どもの多様な遊びを保証する。 	<p>○専門性を生かした授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と協力して、各学年の食指導の充実を図り、食に対する興味関心を高めるとともに、各学年で教科と横断的な学習となるように年間1回以上の栄養教諭による食指導の学習機会を設定する。 ・養護教諭と協力して、外部講師による出前授業なども取り入れながら性に関する指導やからだの仕組みやはたらきについての指導を行う。また、保健便りの発行や、個人懇談等での話題として取り上げるなど家庭と連携して、健康的な生活習慣づくりを推進する。 <p>○給食週間による食・体づくりへの啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食便りや動画を用いて、給食時間を中心に食に関する知識を学ぶ機会を日常的につくる。
---------------	--	---	---

家庭・地域との連携・協働

- 保健体育の評価規準に基づく学習状況の評価の活用(日常の実技テストや観察等)
- プール開放など、PTAやボランティアの協力に基づく運動機会の創成
- 学校独自の児童アンケートや保護者アンケート等の活用
- 学校関係者評価の活用